



北海道大学病院腫瘍センター

高度ながん早期診断研修会・合同カンファレンス

講演

司会 北海道大学病院腫瘍センター准教授

小松 嘉人

1. 「採血で画像診断よりも早くがんを見つけたい」

国立がん研究センター東病院 臨床開発センター
がん治療開発部機能再生室長

中面 哲也

これまでのがん判定はCTなどの画像診断が基準になってきた。しかし画像で診断できるがんは1cm以上であり、1cmのがんには10億個ものがん細胞がある。10億個よりも少ない段階で、究極的には1個のがん細胞でも診断できるようにしたい。

我々は採血による血液検査でがんの超早期発見ができないかと考え、二つのアプローチを行っている。一つは血清や血漿中のマーカーの同定であり、そのために、がんの切除手術をした患者の手術前からがんが再発するまでのサンプルを集め、また、肝硬変の患者が肝細胞がんを発症するまでのサンプルを集めている。もう一つはシスメックスとの共同研究により、血液中を流れているがん細胞（血中循環がん細胞：CTC）の検出であり、この技術には期待している。

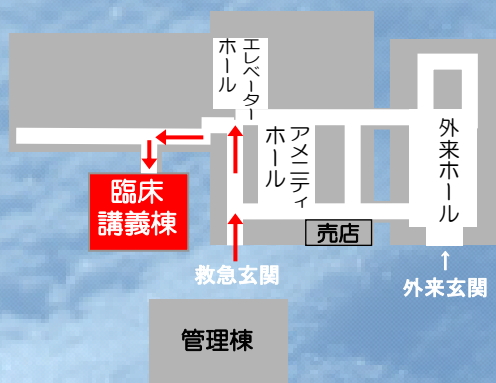
2. 事例紹介に基づいたカンファレンス

日時

平成23年2月18日(金) 午後6時～

会場

北海道大学
医学部臨床大講堂
(札幌市北区北14条西6丁目)



●お問い合わせ先●

北海道大学病院 医事課医療支援室 地域医療連携係
鍵谷, 山内
☎ 011-706-7788
✉ itiiki@jimu.hokudai.ac.jp